

第3章 三島市の地域福祉における課題と提案

1 市民意識調査から抽出された課題

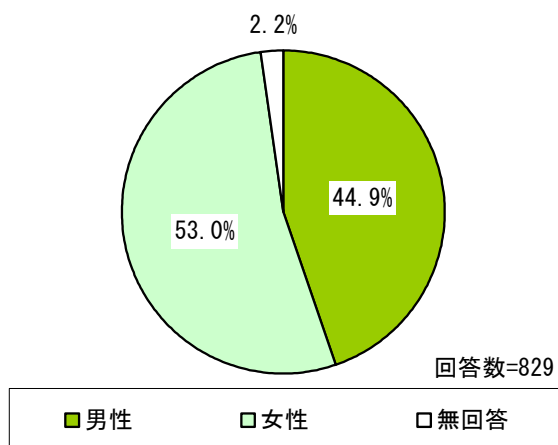
市民意識調査の実施方法等

(調査方法) 郵送配布、郵送回収
 (調査対象) 平成21年10月1日現在で15歳以上の三島市民 男・女 2,000名
 (調査期間) 平成21年12月から平成22年1月
 (有効回収) 調査数 2,000名 有効回収数 829名 有効回収率 41.5%

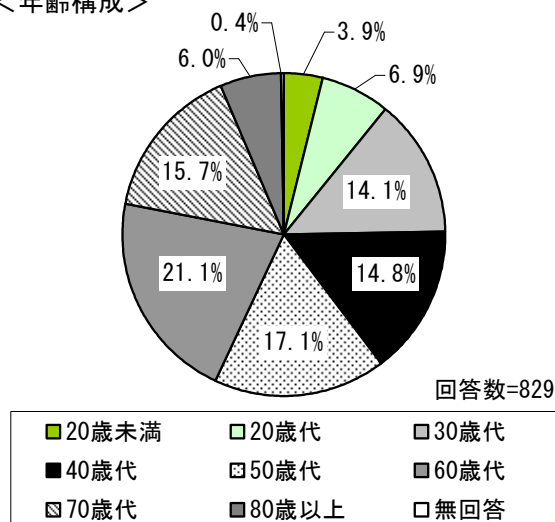
(1) 回答者の属性

回答者 829名の性別、年齢構成、居住地区、世帯の家族構成は以下のとおりとなっています。

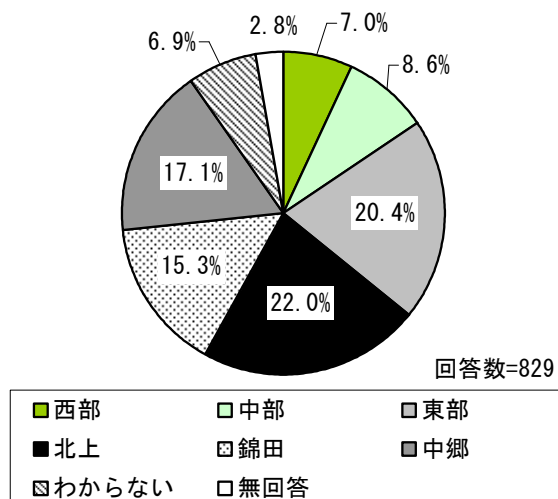
<性別>



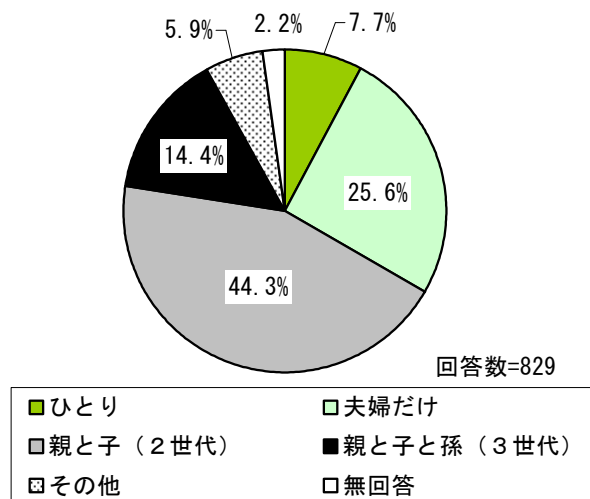
<年齢構成>



<居住地区>



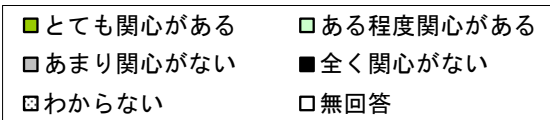
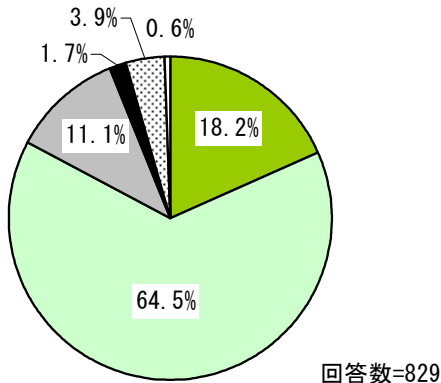
<世帯の家族構成>



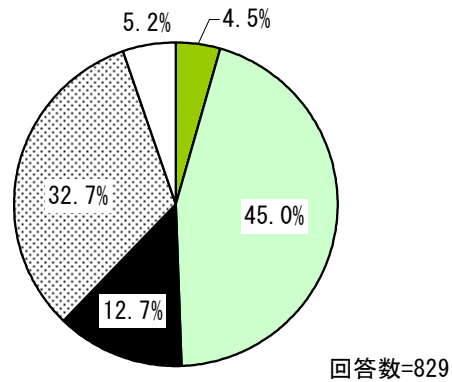
(2) 市民のボランティアへの参加を盛り上げる必要がある

市民の福祉への関心がある割合が8割強で、ボランティアに参加意向が5割となっています。これらの意向を踏まえ、市民のボランティア等の市民活動を盛り上げていく必要があります。

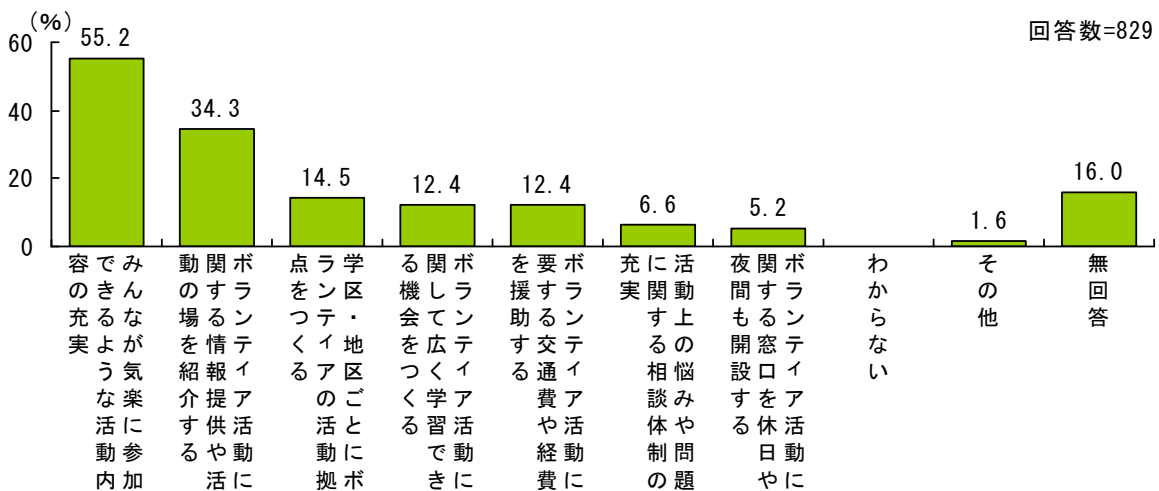
問 福祉への関心の有無



問 ボランティアへの参加意向

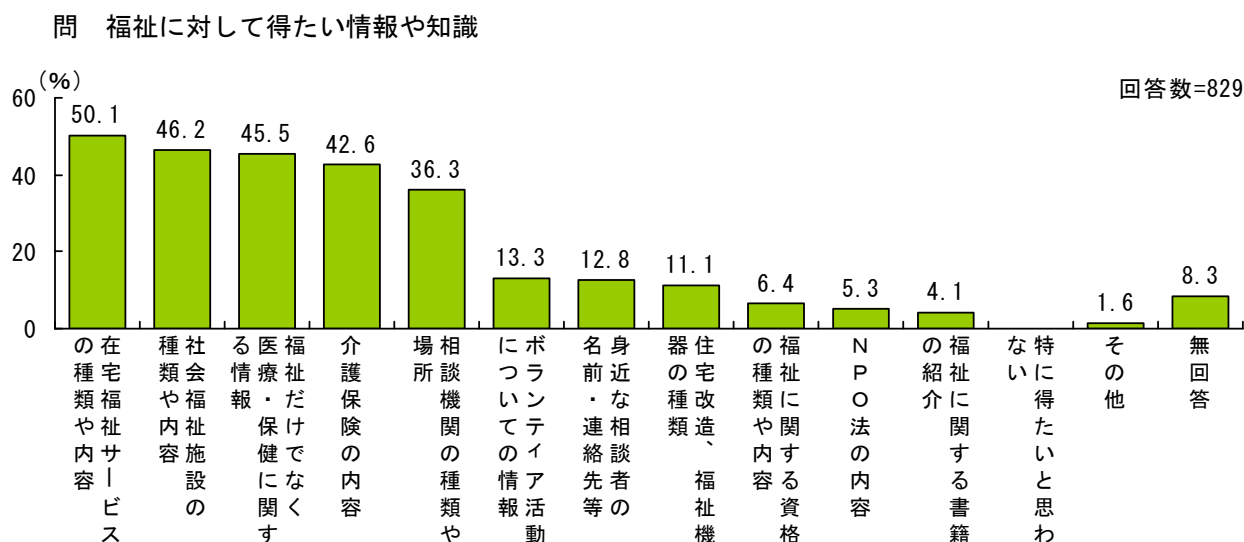


問 ボランティア活動の活性化に必要なこと



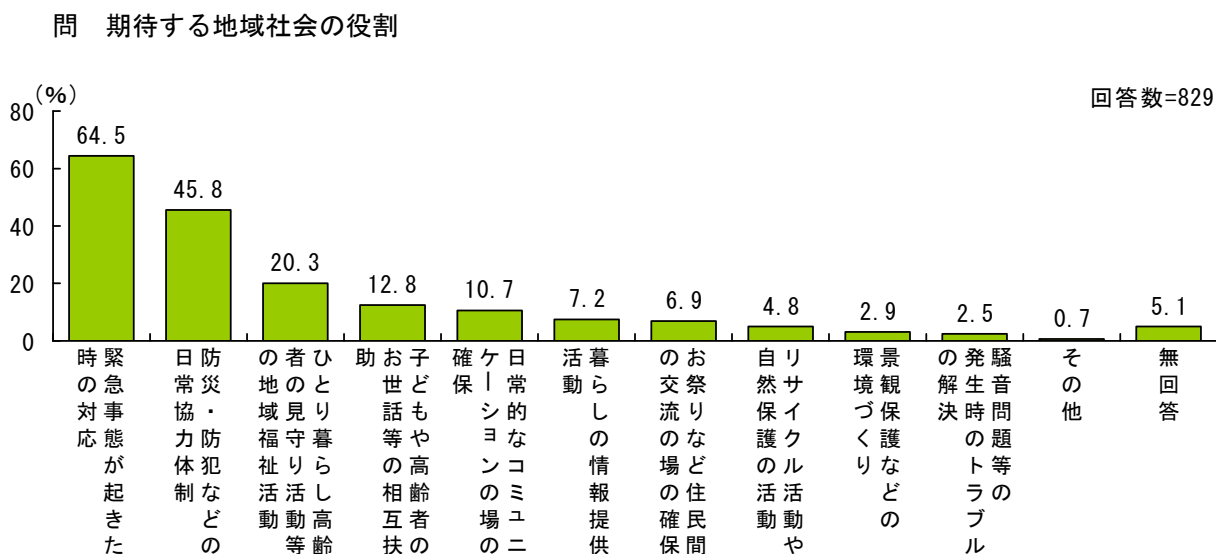
(3) 情報提供をさらに充実していく必要がある

市民が福祉に対して得たい情報は、「在宅福祉サービスの種類や内容」「社会福祉施設の種類や内容」「医療・保健に関する情報」「介護保険の内容」などであり、いずれも4割以上の回答率を示しており、情報提供を今以上に充実していく必要があります。

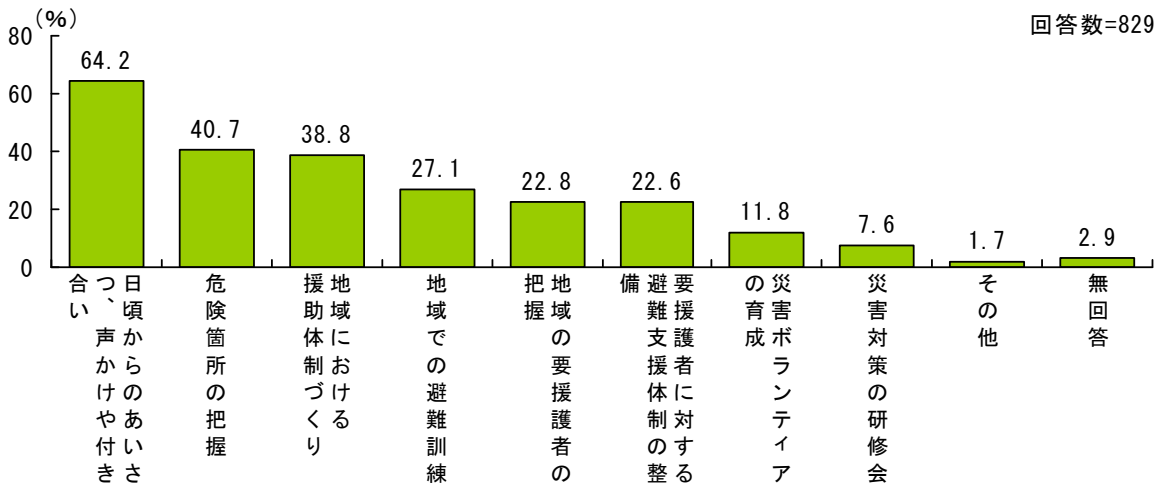


(4) 地域社会の協力体制を整え、地域活動の推進する必要がある

市民が期待する地域社会の役割は、「緊急事態が起きたときの対応」「防災・防犯などの日常協力体制」などが多く、地域社会の協力体制の充実を進めていく必要があります。また、災害時の備えとして重要なものは、「日頃からのあいさつ、声かけや付き合い」「危険箇所の把握」などが多く、地域の活動を推進する必要があります。



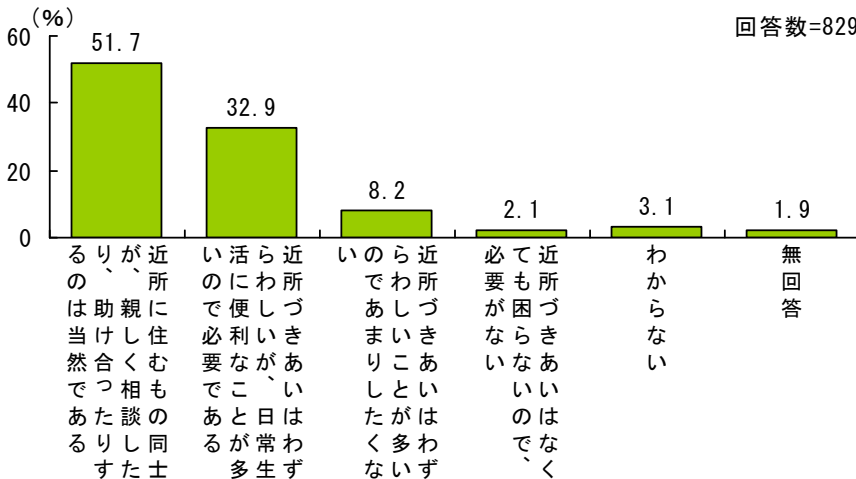
問 災害時の備えとして重要だと思うこと



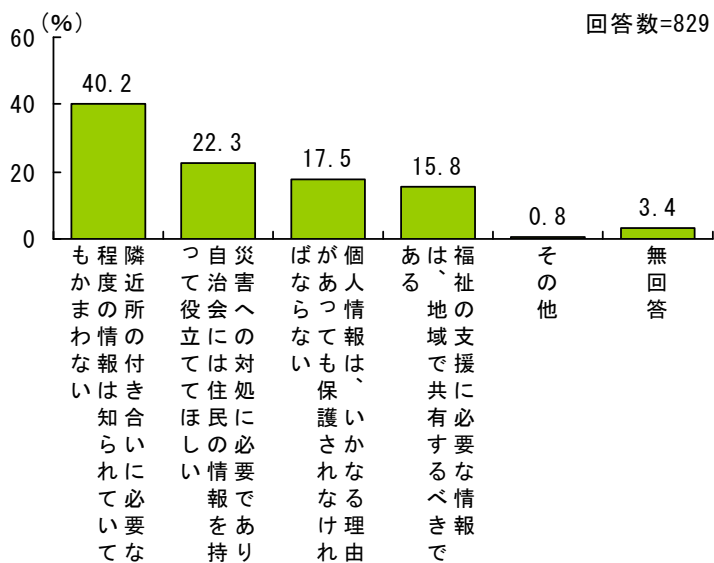
(5) 住民1人ひとりの考え方を考慮して対応する必要がある

近所づきあいに対する考え方は、「近所に住むもの同士が、親しく相談したり、助け合ったりするのは当然である」51.7%、「近所づきあいはわずらわしいが、日常生活に便利なおことが多いので必要である」32.9%で全体の8割以上が近所づきあいが必要であると回答していますが、一方では個人情報の方や隣近所の支援を頼むことへの抵抗感など、住民一人ひとりには様々な意見がみられ、慎重な推進が必要となっています。

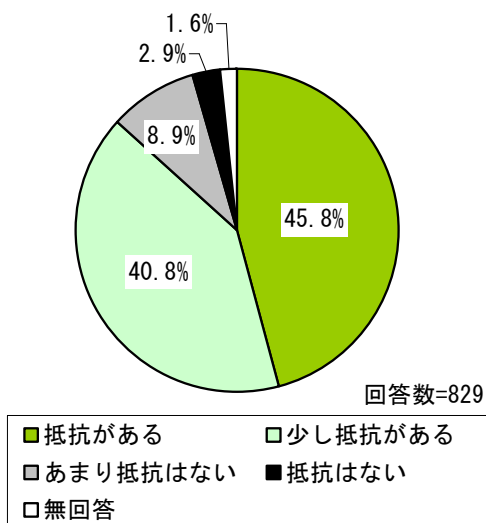
問 近所づきあいに対する考え方



問 地域での個人情報の取り扱いについて



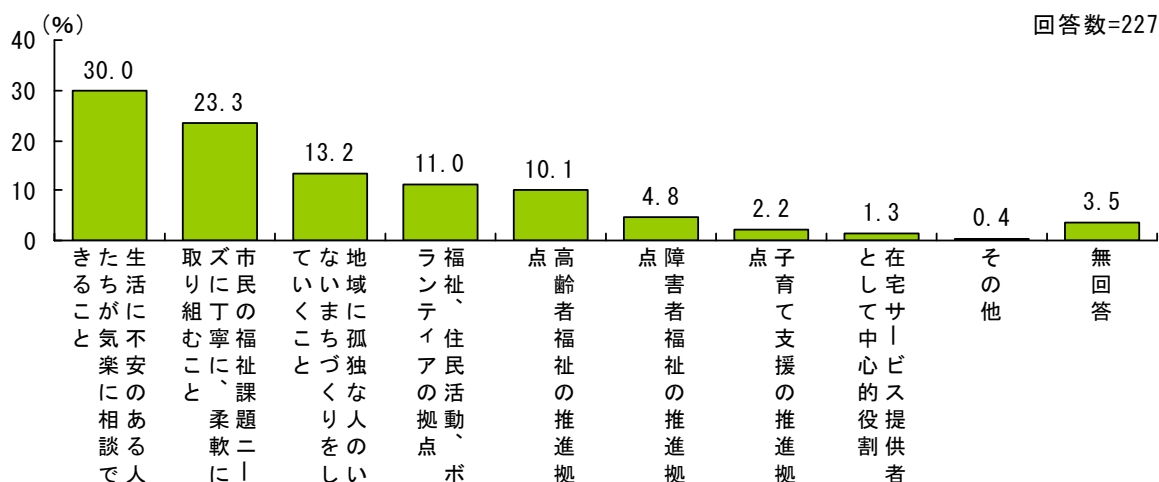
問 隣近所へ支援を頼むことへの抵抗



(6) 社会福祉協議会は相談支援や柔軟な対応を充実していく必要がある

社会福祉協議会に期待することを聞いたところ、「生活に不安のある人たちが気楽に相談できること」30.0%、「市民の福祉課題ニーズに丁寧に、柔軟に取り組むこと」23.3%などが多くあり、これらの意見を参考に社会福祉協議会は相談支援業務の充実や個々のニーズに対応できる体制を充実していく必要があります。

問 社会福祉協議会に期待すること



2 地区懇談会から抽出された課題・提案

地区懇談会の実施方法等

- (開催地区) 旧市内地区、北上地区、錦田地区、中郷地区
 (参加者) 自治会、民生委員・児童委員、教育関係者、ボランティア等
 (実施回数) 平成22年8月12日～9月4日に各地区2回実施
 (内容) 1地区8人程度のグループを3グループ作りグループワークを実施し、第1回目は、地域の課題を出してもらい、第2回目は、その解決策の提案をいただきました。
 それらを要約したところ下記の5つの課題となり、その解決策については、「行政でできること」「地域でできること」「企業でできること」が提案されました。

(1) 世代間交流や近所づきあいの活性化が必要

懇談会の意見では、世代間交流や近所づきあいの活性化が重要との意見がありました。

「行政でできること」としては、市民が活動できる場の確保や交流の機会を増やすなどであり、「地域でできること」としては、あいさつや声かけ、行事や自治会活動等の活性化が提案されています。

懇談会で提案された事項	
行政	●市民が活動できる場の確保
	●交流の機会を増やす（広報・PR・助成金）
	●要援護者情報の把握と役割分担の明確化（ニーズの把握）
	●ボランティア・支援団体の活性化
地域	●あいさつや声かけをする
	●行事の活性化（子ども・お年寄り・ふれあい祭り・清掃活動）
	●地域におけるキーマンを育成する
	●自治会等活動の活性化
	●企業と協力する
企業	●イベントや催事への参加

(2) 一人暮らし高齢者等の要支援者への対策

一人暮らし高齢者等の要支援者について対策すべきという意見がありました。「行政でできること」としては、福祉サービスの充実や安否確認などであり、「地域でできること」としては、定期的に訪問しての見守りや民生委員と自治会等の連携などが提案されています。

懇談会で提案された事項	
行政	●個々に巡回指導や安否確認をする
	●民生委員を増やす
	●福祉サービスの充実
	●通報装置の導入（又は一人暮らし高齢者防犯ベル）
地域	●定期的に訪問する（社会福祉協議会も）
	●民生委員・組長の情報会議（民生委員・自治会・ケアセンター・ボランティアの連携）
企業	●新聞配達の際に声かけをする

(3) 地域で子どもを見守る方策（あいさつ・虐待・不登校）

地域の子どもの見守る対策の充実などの意見がありました。「行政でできること」としては、虐待への対応、相談窓口や児童館の利用の充実などであり、「地域でできること」としては、子どもへの声かけや子ども会の活性化などが提案されています。

懇談会で提案された事項	
行政	●虐待通報への迅速な対応
	●子ども会活動への資金助成
	●子育て中の親へのサポート、窓口を充実する
	●相談の場やスタッフの増強、定期的な家庭への巡回
	●児童館利用の充実
	●地域包括支援センターとの連携
地域	●子ども会の活性化、加入率を上げる
	●声かけをする（朝夕のパトロール・防犯パトロール）
	●PTA活動の活性化
	●かけこみ110番の拡大

(4) 防災・防犯の方策

防犯・防災対策の強化といった意見がみられました。「行政でできること」としては、避難場所や避難経路の整備、防犯情報の伝達などであり、「地域でできること」としては、防災訓練への参加やパトロールの実施などが提案されています。

懇談会で提案された事項	
行政	●避難場所の充実
	●外灯や防犯灯を増やす
	●防犯のため事件情報を伝達する
	●ハザードマップの作成（避難経路の整備と情報公開）
	●防災資材の拡充・資金助成
	●防災アドバイザーによる研修
地域	●防災訓練・防犯訓練への参加者増員（学校も）
	●定期パトロールの実施
	●災害時の連携体制の整理
	●危険箇所の確認
	●自主防災組織の活性化
企業	●マンション等の管理会社が住民を把握する

(5) 地域活動（自治会・老人会・子ども会・ボランティア等）の活性化

自治会や老人会等の地域活動を活性化する必要があるとの意見がありました。「行政でできること」としては、活性化のためのイベントなどの企画や活動内容の情報発信などで、「地域でできること」としては、団体間での連携による交流や、活動内容の研究・充実などが提案されています。

懇談会で提案された事項	
行政	●地域活動活性化のためイベントなどを企画する（先進事例の研究）
	●地域活動資金を助成する
	●活動内容をわかりやすく伝える
地域	●団体間で連携し、交流や活性化を図る
	●活動内容（行事）の研究や充実

3 団体ヒアリングから抽出された意見・要望

団体ヒアリングの実施方法等

- (実施団体) 三島市身体障害者福祉会、三島市手をつなぐ育成会、地域精神保健福祉会
まごころ会 三島支部、三島市障害者福祉施設等連絡協議会、NPO法人
自立生活センター アシストMIL、NPO法人グラウンドワーク三島、
NPO法人リベラヒューマンサポート、グローバル文化交流協会、
NPO法人花咲ネットの会、三島市保健委員会、三島市子ども会連合会、
三島市老人クラブ連合会、三島市民間社会福祉施設協議会、三島市
ボランティア連絡協議会、三島市中央婦人学級（計 15 団体）
- (実施方法) 調査票による記入方式
- (内 容) 団体活動の意見と要望

各種団体についてのヒアリングを行った結果、次のような意見や要望が出されています。具体的には「団体がメンバーを充実したい」「住民等との交流を増やし活動に対する理解を深めたい」「活動の助成等を充実して欲しい」などの意見が出されています。

団体活動について出された意見
●団体のメンバーが高齢化やメンバー数が減少しているため、メンバーの充実をしたい
●団体と地域住民の交流を増やし団体活動に理解を得たい
●団体間の連携を強化して活動の幅を広げたい
●団体活動の情報をPRし、活動への理解と参加者の拡大を図りたい
●活動資金の助成を充実してほしい
●活動拠点の確保が難しいので、支援が充実して欲しい
●災害時には、障害のある人等へ対応マニュアルの作成が必要
●障害への偏見を減らす活動を充実したい
●計画策定に当事者が参加できるようにしてほしい
●不登校・ひきこもりの青少年の就学・就労の支援を充実していきたい
●縦割行政をやめ、効果のある行政対応をしてほしい